

「ダンシング掃除」「勝手に観光大使」子供が夢中になる“仕掛け”

世界一のクラスの担任が教える 家でできる「自信が持てる子」の育て方

2018年11月10日刊行／あさ出版

株式会社あさ出版（代表取締役：佐藤和夫、所在地：東京都豊島区）は、沼田 晶弘 著『家でできる「自信が持てる子」の育て方』を2018年11月10日（土）に刊行いたします。

「どうしたら子どもたちは、これを楽しくやれるかな」が大切

子どもたちみんなに共通していえることがあります。何はともあれ**楽しいことが一番だ**ということ。勉強にしろ、運動にしろ、楽しいことなら、子どもたちは、大人に「やりなさい」といわれなくても、自分からやり始めるのです。それを続けてやり抜くことで、自信もついていきます。本書では、そんな**“仕掛け”**をアクティブ・ラーニングの先駆けである沼田 晶弘先生が、実際のクラスでの取り組みを参考しながら、ごく一般的な家庭で出来る「自主性」「自立性」「自己肯定感」「やる気」を引き出す方法をご紹介します。

ダンシング掃除

仕掛け！ つまらないことはやらない

クラスの掃除では、まず**PCから音楽をかけます**。そして先生が、子どもたちに指示するのは、サビで踊ること、3曲を流し終えるまでに掃除を終わらせることだけです。ただ、**選曲が重要**でノリがよかったり、サビの盛り上がりがよかったりする曲だと、子供たちは、**ノリノリ**で掃除に取り組むようになってくれます。

しかし、サビで踊ることで、その分、掃除にかけられる時間が短くなります。その為、汚れた雑巾は2、3人がまとめて洗い場に持っていくようになったり、ほうきを片付けるときも、誰かがまとめて持ってなりました。つまり、**子どもたちが自らワザを編み出し、掃除をより効率的に終わらせてくれるようになったのです**。



ダンシング掃除中の様子
選曲はDA PUMPさんの『U.S.A.』

勝手に観光大使

仕掛け！ 勉強さんにときめいてもらう

ある日「都道府県の『観光大使』に勝手に就任するから」と子供たちに言いました。「ムリでしょ」「え?できるの?」と口々に騒ぎはじめます。食いつきは上々。予想通りの反応です。

「目的のない勉強は楽しくないもの」だから「やってみたい!」と、子供たちから言ってくれるくらい、**魅力的な提案をしたり、気になる情報を提供したりしなければいけません**。だから「勝手に」をことさらアピールしてみました。そして、誰かがいいました「おもしろいなら、やっちゃおう!」。この「ちょっとおもしろそうじゃない?」と思わせることが大切です。**予想外のフレーズをいわれたことで、子供たちは勉強さんにときます**。そしてパワーポイントも使用、子どもが大人を真似たがるのは、いくつになっても変わらないもの。彼らのやる気の炎は、大きく燃えはじめます。



勝手に観光大使 授業の様子
プレゼンに使用したツールはパワーポイント

宿題が出ているのに、先延ばしにしてなかなか取り掛かってくれません。口うるさく言いたくないけど、結局ぎりぎりになって注意してしまいます。いわれる前に自分からやるようになってほしいのですが、..



気持ちはその簡単には変えられないものです。でも自分で、宣言したら約束は破られないものです。僕なら「何時から宿題やるの?」と尋ねます。そして子どもが時間を自分で決めたなら、それ以上はうるさくいいません。そして時間がきたら声をかけます。宿題はやりたくないけど、自分でした約束を守らないのは、みっともない、だからやる。子ども自身に宣言してもらうのが一番です。



ほめて伸ばすということが、大切なのはわかっています。でもいざほめようとすると、どうゆう風にほめればいいのかわかりません。どうすればいいのでしょうか？



褒めることは大事です。でも本音では「たいしてすごくないな」と思うことまで、ほめていませんか？それではせっかくの褒め言葉も、お子さんの心には響きません。子どもは大人を見抜くものです。見ていてくれた。気づいてくれた。認めてくれた。その実感がお子さんの中にあれば、とてもシンプルな褒め言葉でも、十分に心に響きます。お子さんを褒めるのに、テクニックなど無用なのです。



【書籍名】家でできる「自信が持てる子」の育て方

刊行日 : 2018年11月10日 (土)
 価格 : 1,400円 (税抜)
 ページ数 : 255ページ
 著者名 : 沼田 晶弘 (ぬまた あきひろ)
 ISBN : 978-4866671031

【目次】

- プロローグ
 1章 “自分から勉強をする”ようになる「あの手」
 2章 ついつい“夢中になって”続けてしまう「この手」
 3章 子どもが“もっと伸びる”褒め方「他人の手」
 4章 なんでも“やり抜く力”をつける「神の手」
 5章 子どもと“しっかり向き合っていく”ための「あらゆる手」
 エピローグ



著者プロフィール

国立大学法人東京学芸大学附属世田谷小学校教諭、学校図書生活科教科書著者。1975年東京生まれ。東京学芸大学教育学部卒業後、インディアナ州立ポールステイト大学大学院で学び、アメリカ・インディアナ州マンシー市名誉市民賞を受賞。スポーツ経営学の修士を修了後、同大学職員等を経て、2006年から東京学芸大学附属世田谷小学校へ。児童の自主性・自立性を引き出す、斬新でユニークな授業はアクティブ・ラーニングの先駆けといわれ、数多くのメディアに取り上げられている。